



## 本校卒業生による海外大学進学に関する交流会開催のお知らせ（中1～高3対象）

現在海外大学で学んでいる本校の卒業生から連絡が入り、在校生のために交流会を企画してもらえることになりました。当日は現在日本に一時帰国している学生とまだ現地に残っている学生が参加予定です。直接先輩方と話ができる貴重な機会となりますのでぜひこの機会をご利用下さい。学生諸君のスケジュールの都合で平日の開催となり、親御さんのご来校は難しいかもしれませんが、どうかご容赦下さい。

テーマ：海外大学進学という選択肢を知ろう！

日時：6月20日（火）放課後3時30分から5時まで

場所：合同31教室（サイエンスセンター1階）

参加対象：本校中1～高3生徒及び保護者様

内容：トロント大学新2年の塩川龍哉（令和3年度卒）とカリフォルニア工科大学新2年の池田隼（令和3年度卒）の2名により、交流会を開催いたします（※但し池田はオンライン参加）。海外大学進学を志すに至った経緯やプロセスに加え、海外大学での生活や勉強事情について率直にお話します。交流会では質疑応答の時間を十分に設けて、皆様のご質問に丁寧にお答え致します。海外大学進学をすでに志されている方だけでなく、漠然とした興味を抱いている方々の参加もお待ちしております。

参加希望受付：参加希望生徒はグローバル教育部（2号館2階）に来室の上、クラス・氏名・保護者の参加有無をお申し出ください。今回の交流会は在校生に向けて準備させていただいております。親御さんの参加も大歓迎ですが、生徒向けの内容になることをあらかじめご了承ください。ご参加の場合は生徒経由でお知らせいただければ結構でございます。金曜日はグローバル教育部の担当者が不在となりますので金曜日以外の来室をお願いします。尚、親御さんをご来校の場合はお手数ですが、当日入校証とスリッパをご持参ください。

収容人数の関係で全体で50名までとさせていただきます。なるべく多くの生徒を優先したく、親御さんについては各家庭1名まででお願いできますと幸いです。



## 専攻を考えるシリーズ「心理学」ウェビナー（全学年生徒・保護者対象 無料）

中間考査が終わったばかりでぎりぎりのご案内となり申し訳ありません。海外大学を視野に入れて将来の進路を検討している生徒諸君のために、主だった専攻分野でどんなことを学習するのかを知っていただく企画です。前回の経済学に続き今回は海外の専門家にウェビナー形式で心理学をご紹介します。費用は無料ですが、事前申し込みが必要となります。申し込みは各自でお願いします。

日時：6月2日（金）18：00～18：45

18:00～18:30: イーストアングリア大学教授による心理学レクチャー（英語）

18:30～ 質疑応答（英語&日本語）

※主催はUPAA (University Partnerships for Alternative Admissions) Japan

海外協定大学推薦制度というのがあり、本校も加盟しております。

イベントの詳細は以下のリンクよりご覧いただけます。

[https://upaa.jp/utility/Psychology\\_Flyer.pdf](https://upaa.jp/utility/Psychology_Flyer.pdf)

申し込みは以下のリンクより各自でお願いします。

[https://zoom.us/webinar/register/2516819651625/WN\\_AGNLGK1JRSyBsu49owG6uA#/registration](https://zoom.us/webinar/register/2516819651625/WN_AGNLGK1JRSyBsu49owG6uA#/registration)

今回のイベント紹介サイトの一部を以下転載しますのでご参考になさってください。

## II 心理学について

心理学は、人間の行動や精神機能を研究する学問として知られていますが、私たちを取り巻く世界が進化し続けるにつれ、私たちの生活のさまざまな場面で心理学が応用されるようになっていきます。もちろん、今でも心理学の重要な対象は、治療や精神障害のある患者ですが、それを主としていた時代は過ぎ去り、心の健康と人的生産性や人生全般との関連性についての理解が深まるにつれ、近年ではさまざまな業種で心理学者が雇用されています。適応性の高い分野として、産業・組織心理学、社会心理学そしてスポーツ心理学は、この伝統的な研究分野における最近の活用例であり、あなたのキャリアに様々な道を開くことができます。

## II ガレス・エドワーズ博士 (イーストアングリア大学心理学部)

エドワーズ博士は、主に社会的文脈や社会的相互作用に関わる社会的認知処理と注意のメカニズムに関心を寄せています。こういった関心は、私たちの注意がどのように分配されるのかを視線を追うことで調べたり、定期的に接する人々によって私たちの注意がどのように影響されるか、視線の相互作用が他者を知覚処理する方法をどのように変えるのかを研究したり、視線動作の個人差などの調査をしたりすることにつながっています。



### 海外大学進学の流れ

前年度末のグローバル通信121号に掲載した日経新聞の記事の一部を次ページに再掲致します。本文は省略しますが、いつ頃からどんな準備をすればいいのかが分かりやすく示されていますのでご参考になさって下さい。

海外大を目指そうが国内大を目指そうが大事なことは共通しています。これまでの卒業生を見ていて感じることを箇条書き式に何点か列挙してみます。

○本校での学習をおろそかにしない。

学年が上がってくるとついついこの科目は受験に必要、この科目は直接使わないので手を抜いてしまうといった色分けをしがちです。GPA（評定平均）は海外大を目指す場合でも重要視されません。高1～高3の3年分で極力5.0に近づけることを目指して努力しましょう。

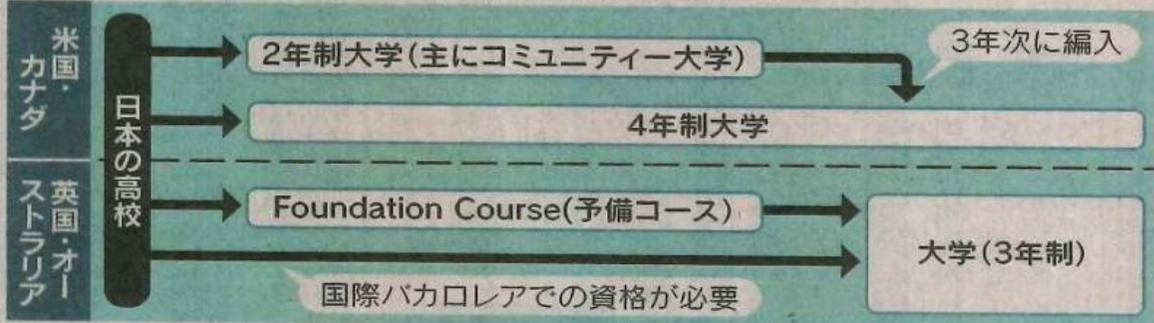
○課外活動も大切です。

海外大の場合は日本のようないわゆる一発勝負の学科試験がないため、学業以外の課外活動でどんな活躍をしていたかが重視されます。近年本校の生徒も〇〇オリンピックなどのイベントで受賞するケースも増えており、他の受験生との差別化を図るアピールポイントにもなります。

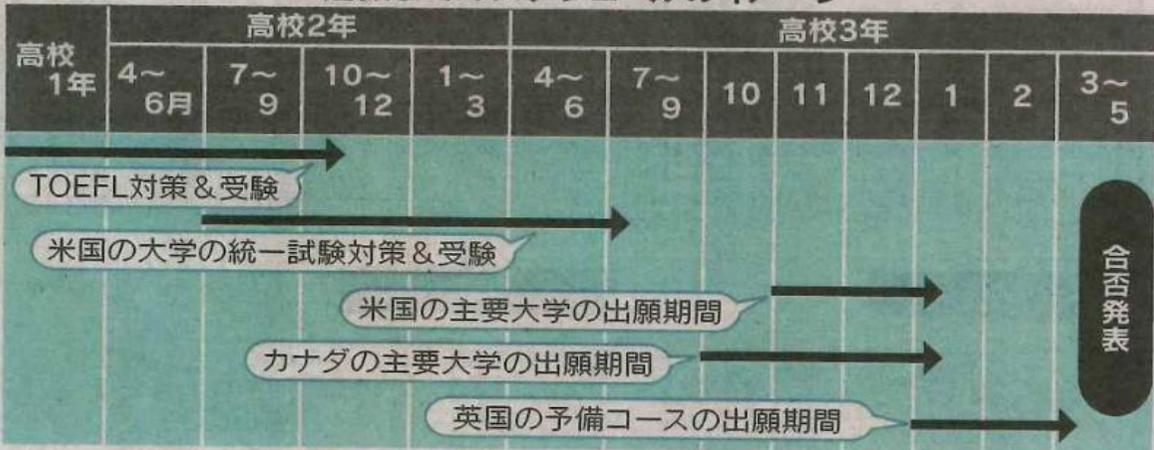
○タイムマネジメントをする。

海外と日本ではカリキュラムが違いますし、出願に必要な資格も異なります。その意味で複数のことに同時並行で取り組む必要が出てきます。切り替え上手でないとついつい消化不良となってしまいます。自己管理がどれだけできるかがカギとなります。

## 海外大学進学のための主なルート



## 選抜までのスケジュールのイメージ



### 米国の主要大学の合格者数と合格率 (2021年9月入学のケース)

|          | 合格者数(人) | 合格率(%) |
|----------|---------|--------|
| コロンビア大   | 2218    | 3.66   |
| ハーバード大   | 1968    | 3.43   |
| ペンシルベニア大 | 3304    | 5.87   |
| プリンストン大  | 1647    | 4.38   |
| エール大     | 2509    | 5.31   |
| スタンフォード大 | 2190    | 3.95   |

### 入学審査の主要項目

|           |                                 |
|-----------|---------------------------------|
| TOEFLスコア  | トップ校は105点以上                     |
| SAT(統一試験) | 国語と数学の2科目。日本国内で受験できる。年6回開催      |
| 高校の成績     | 高校のレベルもチェックされる                  |
| 活動・受賞履歴   | コンテストや大会における結果や成果など             |
| エッセー      | 志望理由や、将来についてなど                  |
| 推薦状       | 教員が生徒の長所などについてエピソードや客観的事実を交えて執筆 |

(注)アゴス・ジャパンへの取材を基に作成

日経新聞 2023年3月14日掲載記事より転載